

## 総合計画・復興計画策定検討部会 における主なご意見

### <目次>

- 1 第5回総合計画・復興計画策定検討部会（R3. 3. 23）の事後意見  
…P. 1
- 2 第5回総合計画・復興計画策定検討部会（R3. 3. 23）の意見  
…P. 2～5
- 3 第4回総合計画・復興計画策定検討部会（R3. 1. 20）の事後意見  
…P. 6～7
- 4 第4回総合計画・復興計画策定検討部会（R3. 1. 20）の意見  
…P. 8～11



## 第5回総合計画・復興計画策定検討部会(3/23)終了後にいただいた意見

### < (1) 新たな福島県総合計画(将来の姿、主要施策等)について >

No.	氏名	事後意見	回答内容
1	今野委員	<p>[資料1 P22～27]</p> <p>新たな総合計画の理念を「SDGs」と関連付けたことは、現在の社会の潮流から自然であり、共感を得られる。しかしながら、「SDGs」の言葉や理念は浸透しつつも、具体的内容まで理解されているかは疑問。</p> <p>P.22「自分でできることを考える」の食品ロスの視点で「食べ残しをしない」を例にすれば、「健康上で食事制限者の立場、店側の収益。」など、複眼的思考・視点では負担や不利益も生じる。消費者・生産者、経営者・従業員などの立場・関係性や短期・長期の時間軸などによって、県民等の負担や支障が生じることも想定される。</p> <p>その負担や支障の改善・解決が、イノベーションではないかと思う。「SDGs」の理念と将来像へのアプローチは、県民によるイノベーションではないか。P23中に、イノベーションをワードとし、合わせて、県民の積極姿勢を示してはどうか。</p>	<p>「将来の姿」については、『「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながらシンカする豊かな社会』としており、【調和】も重要な視点と位置づけております。</p> <p>将来の姿の実現に向けて、一つの政策に偏ることなく、各政策のバランスに配慮し、調和をとりながら、県のみならず、様々な主体と力を合わせて取り組みを進めていけるよう、主要施策の構築などを進めてまいります。</p>
2	岩瀬委員	<p>[資料1 P14 (記載表現について)]</p> <p>最下段の記載「役割を果たせるよう議論を深めていくことが必要です。」</p> <p>ここは行財政のことを記載してますので、議論をするだけに留まらない、前向きなアクションを伴う表現にすべきではないでしょうか。例として、「対応していく」「取り組んでいく」などの表現。</p>	<p>御意見を踏まえ修正いたします。</p> <p>P17最下段 (修正前)「議論を深めて～」 (修正後)「取組を進めて～」</p>
3	岩瀬委員	<p>[資料1 P23-P27 (記載構造について)]</p> <p>“ふくしまの将来の姿”はP23に大上段(基本)のものがあり、以降P24から詳細化されたものが記載されていますが、この関係がわかりにくく、SDGsに関する整理に併せて整理いただきたいと思えます。</p> <p>例)「みんなで創り上げたいふくしまの将来の姿」の基本は「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながらシンカ(、、)する社会とします。</p>	<p>P23、P24の関係性が分かるよう、記載方法を検討してまいります。</p>
4	岩瀬委員	<p>[資料1 P23-27 “ふくしまの将来の姿”とSDGs]</p> <p>部会で指摘がありましたが、先ず“ふくしまの将来の姿”があり、それがSDGsの方向性にも合っていることが適切と思います(“福島県の将来の姿”→SDGs17)。その場合、“ふくしまの将来の姿”の項目は(ひと、暮らし、しごと)で分類されるべきかと。</p> <p>また、上記の簡易的なリバースの図(SDGs17→福島県の将来の姿)の追加、もしくはP23の下の図を強調すれば、SDGsをカバーした県の総合計画としてアピールできると感じます。SDGsは流行、免罪符的であるとの指摘も理解しますが、国際社会や環境保全の方向性からは総合計画として準拠すべきと考えます。</p>	<p>ふくしまの将来の姿を「ひと」「暮らし」「しごと」に分類し、記載方法を検討してまいります。</p>
5	岩瀬委員	<p>[資料1 P28 避難12市町村の目指す将来の姿]</p> <p>参考に載せる場合はかまいませんが、本文として扱う場合は、“ふくしまの目指す将来の姿”と“避難12市町村の目指す将来の姿”では、前者でカバーされている項目は後者から外す整理が必要では。(詳細度が統一されていることが前提)。</p> <p>また、現在の“避難12市町村の目指す将来の姿”記載は提言から抜粋されているようですが、10の・が羅列されわかりにくく感じます(2番目と4番目は類似など)。</p>	<p>総合計画への記載は、12市町村将来像有識者会議で出された提言の概要を参考記載として整理します。</p>

## 第5回総合計画・復興計画策定検討部会(3/23)における委員からの主な発言と応答

### ＜(1) 新たな福島県総合計画(将来の姿、主要施策等)について＞

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
1	川崎部会長	基本目標(スローガン)はいつ頃になるか。次回には出るか。	最後になると思う。ここが一つの集大成になるので、議論を深めてからと考えている。 (復興・総合計画課長)	—
2	岩瀬委員	P23の将来の姿について、SDGsに対応してうまくまとめていると思うが、将来の姿について、P28には避難12市町村の目指す姿がある。全県で目指す姿の他に、避難12市町村は特別なので特出ししているという整理でよい。記載の詳細度がだいぶ違うので戸惑った。	P28の避難12市町村の将来の姿は、12市町村将来像有識者会議で先行して出された提言。こういったものを踏まえていくべきということだが、参考とするのか、入れ込むのか未調整の部分がある。 総合計画や復興計画と福島特措法などとの整合は無視できないので、押さえるべきところは押さえる考えだが、レベル感などはこれから調整したい。 (復興・総合計画課長)	総合計画への記載は、12市町村将来像有識者会議で出された提言の概要を参考記載として整理します。
3	川崎部会長	12市町村の将来像は、策定主体が有識者検討会ということで、どちらかというと上位計画とか関連計画の位置付けだと思う。総合計画そのものの内容とは違う気がするので整理していただきたい。	—	—
4	横田委員	P24のふくしまの将来の姿とSDGsがリンクしてない印象がある。飢餓をゼロにとっているが、その将来の姿が、「産地の生産力が向上し〜」となっている。しかし福島で飢餓は無い。無理にリンクさせるのか、させなくてもいいのか。	事務局も悩んだところ。総合計画は分かりにくいというのが昨年度からの課題としてある。 一方で、SDGsは大事であり、1つの取組により、総合計画でも達成しているし、SDGsでも達成しているのではないかと発想からくるアイデアである。 県民から見た時に、我々が取り組んでいることは、県庁だけではなく、社会的な課題や国際的に課題となっているものと結びつきがあると伝えたい。できればこの方向で整理していきたいと考えている。文言は足りない部分、繋がらない部分あると思うので是非御意見を頂きたい。 (復興・総合計画課長)	未曾有の複合災害からの復興を進める本県にとって、①引き続き国内外福島に心を寄せる人々との連携・協働を深めること、②普遍的な課題に照らして県づくりの方向性を示すことが重要であると考えます。  そのため、SDGsという世界共通言語に照らして本県の将来の姿を整理することで、他の地域よりも複雑な課題を抱える本県の目指すべき将来の姿の実現に繋がるものと考えます。
5	横田委員	貧困で言えば、子ども食堂という言葉がイメージされる。あまり具体的に表現し過ぎない方がよいが、SDGsの目標と県の将来像を結ぶには大分工夫が必要と思う。	—	—
6	川崎部会長	貧困、飢餓あたりが福島で大きな問題にはなっていない。これを掲げて本県の将来像とってよいのか疑問。そのギャップを県民が見た時どう捉えるか整理してほしい。	—	SDGsと将来の姿について、ひと暮らし・しごとの分野と整合を図る形で表現を修正しました。
7	西崎委員	SDGsについて、まだまだ一人一人の県民レベルには浸透してきていないと感じる。一方でP22のSDGsの記載を読んだときに、SDGsを達成することが目的という印象を受けた。P24以降もSDGsを軸にふくしまの将来の姿が描かれていて、関係性が逆のような気がする。福島を目指す姿に対してSDGsに当てはまるという書き方が出来ると思う。立ち位置、関係性に違和感がある。	これはかなり実験的な取組だと思っている。社会の課題というものは、P23にあるとおり、ひと暮らし・しごと・暮らしが何かしらSDGsにひっかかる。 課題をどう捉え、どういう姿を目指すのかをイメージして整理した。西崎委員の指摘はそのとおりだが、「課題」と捉えた時に、それを本県計画で解決できるということを示したいと思っている。繋げ方を工夫したい。基準や分かりやすいものとしてSDGsを活用したいという考えである。 (復興・総合計画課長)	(No.4参照)

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
8	横田委員	<p>福島の将来の姿を計画の左側に置いて、右側にSDGsの17の目標を置いたほうがいい。1の「誰もが、医療、教育などの基礎的なサービスを享受できる環境が整っている」については、4「質の高い教育をみんなに」にもあてはまる。つまり、SDGsに当てはめるから合っていないように見えるので、本県の取組を進めていくとSDGsにも合致すると見せた方が良くと思う。</p>	<p>これまで取り組んでいることをどう当てはめるかという視点だと、ただ並べるだけになりがちなので、どのように共有できるかという実験的な視点で整理した。</p> <p>これに固執するものではなく、分かりにくいという御意見も踏まえ、見せ方を研究してより良いものにした。</p> <p>(復興・総合計画課長)</p>	(No.4参照)
9	今野委員	<p>SDGsに寄りかかれれば、免罪符になって通ってしまうおそれがある。SDGsという言葉を使うことで、何でも理解されてしまう世論の流れもあるので使い方には注意が必要。</p> <p>例えば、エネルギー政策について思い出してほしいが、震災・原発事故の時に電気が無くなり、電気を消費していた東京は停電の中で生活することを経験した。</p> <p>つまり、現状の生活を維持しようとするほどどこかに負荷がかかる。そうであるならば、今後の社会を見据えると、エネルギー政策を含めて節電などが必要である。今のエネルギーを維持しようすると、その結果、自然エネルギーや再生可能エネルギーなどを使うことになるが、太陽光パネルもいずれ劣化して廃棄物になる時代が来る。そうすると処分によって環境に負荷がかかるし、資源も使うことになる。</p> <p>SDGsという言葉の反面、それだけの負荷が将来的にかかってしまう。そうであるならば、私たちの生活の在り方そのものも、理念そのものを理解した上で、多少不便であっても、その中で自分の便利さを見出すことが大事。今の水準だけを追い求めると、自然に対する環境に対する負荷がかかってくるし、原発事故で起きた停電でも我慢してきた苦勞もいかせなくなってしまうのではないか。</p>	—	<p>「将来の姿」については、『「ひと」「暮らし」「しごと」が調和しながらシンカする豊かな社会』としており、【調和】も重要な視点としております。</p> <p>将来の姿の実現に向けて、一つの政策に偏ることなく、各政策のバランスに配慮し、調和をとりながら、県のみならず、様々な主体と力を合わせて取り組を進めていけるよう、主要施策の構築などを進めてまいります。</p>
10	松澤委員	<p>これまでの審議会でも何度かSDGsについて発言してきたが、資料は分かりやすくなったと思う。しかし、その反面、福島県の目指す目標は、主要施策やSDGs、将来の姿など、どこに着目すればいいのかわからないので、整理が必要と感じた。</p> <p>また、P18にカーボンニュートラルについての記載があるが、これまでの審議会資料にはなかった。急に出てきたのでなぜかという印象を受けた。</p>	<p>カーボンニュートラル自体は、もともと廃プラ問題など社会的な負荷が大きい課題として内在していた折に、先般、県としてカーボンニュートラル宣言をした。</p> <p>新型コロナウイルス感染症もそうだが、県庁内の話で言うと、生活環境部だけの問題、保健福祉部の問題になりかねないところがある。しかし、そうではなくて、横串を刺して各部局が、また県庁だけでなく市町村、県民一体でやっていく必要があると考えているので、単一部局で解決できる課題ではないということをきちり位置付けたいという思いがある。</p> <p>(復興・総合計画課長)</p>	<p>新たな総合計画においては、第3章において「みんなで創り上げる将来の姿」を掲げ、その将来の姿をSDGsという世界共通言語に照らして広く共有を図り、その実現に向けた具体的な県の取組を主要施策として整理しています。</p> <p>また、地球温暖化をはじめ、社会情勢の急激な変化に対応し、部局横断的に対応するべき課題を第2章3において記載しているところ です。</p> <p>それぞれの項目の関連性が県民に分かりやすいよう表現方法等工夫をしております。</p>
11	松澤委員	<p>カーボンニュートラルはタイムリーな話題。福島県の場合、森林面積が広く、全国的に見ても、カーボンニュートラルにおいて福島県のポジションは非常に重要になってくる。自然環境だけではなく、地場産業との結びつきもある。その反面、都市圏の企業や外国資本に福島が良くも悪くも使われるという危機感もあるので、福島県のカーボンニュートラルについて記載するのであれば、本県のポジションを明確に記載してほしい。</p>	—	<p>カーボンニュートラルの実現に向けては、本県の自然環境等をいかした取組や、地域主導による再エネの導入、地元産業との協働等、様々な主体による分野横断的な取組が必要と考えております。</p> <p>ご意見を参考にさせていただきながら、主要施策に反映してまいります。</p>

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
12	岩崎委員	指標について確認したい。部門別計画の策定が各部局で進み、そこでも審議会において指標が検討されていると思うが、総合計画の指標と部門別計画の整合はどうか。	P3の図のとおり、総合計画に分野別の計画がぶら下がっている。各部局とも連携しながら本日の資料となっており、新しい計画策定に向けて一つ一つのような指標が効果的か議論しているところである。総合計画が先行し、分野別の計画がそれに続く。総合計画が先行して9月を目途にまとめ、その後分野別の計画が追い付くという流れである。(事務局)	—
13	横田委員	指標の作り方について、各部局で検討されていると思うが、プラスカウント、マイナスカウントがありばらばらである。 例えば自殺者数について、プラスとなっている。本来であればマイナスカウントだと思う。今は積み上げ式になっており、プラスだとそのプラス分亡くなってよいというように捉えられる。各部局でばらばらであり、見直すタイミングとしては今がよいと思う。去年よりもマイナス何%、去年よりもプラス何%という設定の仕方を県として統一してほしい。	現行計画では170を越す数の指標があり、分野別計画ではさらに多くの指標がある。見直しのタイミングと捉え、統一できるものは統一するなどしたい。 また、どうしても定量的な表現が難しいものは定性的なものや県政世論調査などアンケートによる指標なども踏まえ検討していきたい。(事務局)	—
14	前澤委員	自殺者数の話が出たが、自殺未遂も多い。亡くならないとカウントされないため、未遂者数が減っていくという視点があってもいいと思う。死にたい人がどれだけ減っていくかに視点を置いてほしい。	—	相談件数など、把握できるものがあるのかどうかを含めて検討します。
15	岩瀬委員	あるべき将来の姿がSDGsにどう対応するかの部分について、現状は、SDGsの17の目標ごとに将来の姿が描いてあるが、あくまでカテゴリーとして「ひと」「暮らし」「しごと」3つの分野で分類して書くことが必要と感じた。読んでいて分かりやすいカテゴリー3つが前提にまとめるのがいいと思う。将来の姿は左に置くべきというのは皆さんと同じ意見。それを3つの分類を意識して書くべき。p23の表を参考に。 もう1点。以前審議会の中で、岩崎会長が指摘した「本県は今まで震災・原発などの災害が起きていて、本県ならではの復元力・レジリエンスを持っているということを掲げる姿勢が重要では」という指摘に共感した。これがP29の県づくりの理念あたりと思うが、ただ書きぶりが足りないと思う。	重要な視点だと思う。以前指摘された部分に強硬化と記載しているが、これまでの震災・原子力災害も含めてイメージできるように書きぶりは修正を検討したい。思想として重要な部分。(復興・総合計画課長)	SDGsと将来の姿の関係性の考え方はNo.4のとおりです。  復元力・レジリエンスを掲げるという御意見部分については、御指摘を踏まえ、「県づくりの理念」に記載しました。

< (2) 第2期福島県復興計画(案)について >

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
1	川崎部会長	指標について、例えば、P67のホープツーリズム数はこのままいきたいということか。	先行して策定した地方創生総合戦略の指標を参考に入れている。次期総合計画で見直し、改めて反映させたい。今入っているものは参考指標。(復興・総合計画課長)	—
2	岩瀬委員	P4の下の図(建物の図)について、復興の前提となる長期的な取組に土台があって1階、2階の図があるが、個人的には原子炉建屋を想像した。右側に廃炉の写真もあるので。あえて建物のイメージがいいのかどうか。他の人が建屋のイメージあるかどうか分からないが。	—	御指摘を踏まえ、本県の復興は2階建て構造という注釈を入れました。
3	川崎部会長	土台のところの記載について、表現としては「廃炉」ではなく、意味が広い「事故収束」のほうがいいのではないかと。検討してほしい。	—	事故収束という表現は事故直後は用いられていましたが、現在はあまり用いられていません。御指摘を踏まえ、「廃炉など」という表現に修正しました。

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
4	岩崎委員	<p>総合計画の議論に戻るが、部会長がおっしゃっていた指標見直しの件について、居住者の数など行政にとっては重要だが、住民にとっては別の指標が必要というのは重要な視点。これは復興計画でも同様。指標は避難者や被災者へのメッセージになる。県は何を目指していくのかを示すものとなるので、県の持続性だけを示すのではなく、住民自身にとって、そこで暮らす避難者や被災者たちにとって、自分達の暮らしがどう生活再建できているのかが分かるような指標づくりが大事である。これから総合計画の議論の中で見直しをしていくという理解でいいか。</p>	<p>ご指摘のとおり。総合計画の議論の中で指標を設定し、復興計画にも反映していく。 (復興・総合計画課長)</p>	—

## 第4回総合計画・復興計画策定検討部会(1/20)終了後にいただいた意見

### < (1) 新たな福島県総合計画(将来の姿、県づくりの理念、地域別の主要施策等)について >

No.	氏名	事後意見	回答内容
1	今野委員	<p>今年4月から改正高齢者雇用安定法により70歳までの就業確保措置が施行されます。このような中で、高齢社会を悲観的な表現とせず今後の社会では当然とした上で、希望や安心を見出す具体策が必要と考えます。</p> <p>特に、高齢化・人口減少が顕著な本県において、計画では高齢者(表現がネガティブ?)も必要な人的資源と位置づける姿勢は示せないか。</p>	<p>人口減少、高齢化が進み、企業等の人材不足等が懸念される中で、高齢者は、県内経済を支えるとともに、技術や伝統・文化の継承など若い人材の育成面でも重要です。</p> <p>また、高齢者の積極的な社会参画は、生きがいにも寄与するものと考えます。</p> <p>新たな総合計画においては、上記の観点を踏まえ、記載を検討いたします。</p>
2	岩瀬委員	<p>(全体)世界レベルの産業研究拠点(以前も類似の指摘)福島県には、震災後、世界レベルの産業研究拠点が構築されましたが、これらは県の大きな資産(宝)であることを施策・計画上も再認識し、前面に打ち出すべきと考えます。現状はイノベーションコースト構想の単独記述や分散記述となっています。イノベーションコースト構想の南相馬ロボットテストフィールド、国際教育研究拠点(今後)、福島再生可能エネルギー研究所、医療機器開発支援センター、環境創造センター等、その活用は世界からも注目されています。これらは産業拡大に留まらず、交流人口の増加、ふくしまの新たなブランドにもなり、若い方に夢を与えます。ふくしまの未来を成す産業振興、人材育成を推進する中核となるものです。</p> <p>記載については現在、第2章P10「(4)福島イノベーション構想の推進」としての現状の記載、第3章ではp24にありますが単発にしか触れられてません。P26理念、P28基本的な考え方、は正しく大切なことは理解しますが総論、精神論的です。これらの理念、考え方のレベルで「拠点という類まれなふくしまの資産を活かした県づくり」を記載すべきではと考えます。</p>	<p>御意見を踏まえ、県づくりの理念の本文を修正いたします。</p> <p>なお、福島イノベーション・コースト構想などによる研究拠点を活用した産業振興、人材育成等については、主要施策においても記載を検討いたします。</p>
3	岩瀬委員	<p>資料1 P11 (5)新産業の創出・地域産業の再生 記載の再生可能エネルギー、医療、航空宇宙産業の拡大を含め今後の産業振興にはデジタル化が不可欠であり、その記載があるべきでは。</p> <p>例)「また、これらの新産業創出、集積には今後デジタル化が必須となるため、情報通信産業(ICT)人材の育成も併せて推進を図る必要があります。」 (具体的な施策については、何らかの関連する施策はあると解釈します。また、県施策に限らず民間、大学もICT人材育成は実施します。)</p>	<p>頂きました記載例を参考に修正いたします。</p>
4	岩瀬委員	<p>P12 下部の「ALPS処理水」の箇所は、ALPS処理水とはの説明に過ぎないのでは。上段のF1の記載のレベルと異なり同列に並べることに違和感。汚染水処理については書き方が難しいことは理解しますが、(良い記載案はないが)せめてこの箇所は「参考:汚染水とALPS」のようなタイトルにされたいかがでしょうか。</p>	<p>御意見を踏まえ引き続き検討して参ります。</p>
5	岩瀬委員	<p>P14 (今野委員ご指摘同様) 人口年齢構成が高齢化に山が移っていく前提で、高齢者が健康で生きがいを持ち、経験を活かして働き、結果、税収にも貢献していただくことは総合計画上極めて重要です。特に若者が流出傾向にある地方では若者だけに限らず、健康な皆が働いていただくということです。高齢化を、社会保障、医療費面など否定的にとらえるだけでなく、高齢層を活かす視点が必要。</p>	<p>人口減少、高齢化が進み、企業等の人材不足等が懸念される中で、高齢者は、県内経済を支えるとともに、技術や伝統・文化の継承など若い人材の育成面でも重要です。</p> <p>また、高齢者の積極的な社会参画は、生きがいにも寄与するものと考えます。</p> <p>新たな総合計画においては、上記の観点を踏まえ、記載を検討いたします。</p>

No.	氏名	事後意見	回答内容
6	岩瀬委員	<p>資料2 P2 ひと分野 政策3 「福島ならではの」教育の充実 施策② の記述。現在の社会環境を鑑みると、情報活用、情報モラルに加えて「情報セキュリティ教育」が重要と考えます。</p> <p>P2 政策4 ふくしまを支える人づくり 施策については既に想定済みのものをボトムアップに記載されているかもしれませんが、今後の社会の環境を考えると人づくりの施策として「デジタル化」は基本となるもので、このレベルの箇所での記載が適切かと考えます。 例) 施策①の( )内 「福島イノベーションコースト構想を支える人材、デジタル化人材 キャリア教育に関する取組など」</p> <p>P2 政策6 ふくしまへの人の流れ 産業視点での人の流れを作る施策も重要。イノベーションコースト構想、医療機器試験センターなどは新しい人の流れを作る県としての重要な資源と考えます。</p>	<p>頂いた御意見を参考に追記、修正を検討いたします。</p>

< (2) 次期福島県復興計画(素案)について >

No.	氏名	事後意見	回答内容
1	横田委員	<p>復興計画はスタートが東日本大震災なので、ビフォー(2011年)の写真や数字をきちんと出したほうがいいと思います。 その後10年でここまで進み、2次では・・・と繋げていけばビフォー・アフターの進捗が明確になると思います。</p> <p>それから、写真ですが何年時点のものかわかるようにした方がもっとわかりやすいかと思いました。</p>	<p>御意見を踏まえ、計画素案を修正しました。</p>
2	今野委員	<p>今年4月から改正高齢者雇用安定法により70歳までの就業確保措置が施行されます。このような中で、高齢社会を悲観的な表現とせず今後の社会では当然とした上で、希望や安心を見出す具体策が必要と考えます。 特に、高齢化・人口減少が顕著な本県において、計画では高齢者(表現がネガティブ?)も必要な人的資源と位置づける姿勢は示せないか。</p>	<p>人口減少、高齢化が進み、企業等の人材不足等が懸念される中で、高齢者は、県内経済を支えるとともに、技術や伝統・文化の継承など若い人材の育成面でも重要です。 また、高齢者の積極的な社会参画は、生きがいにも寄与するものと考えます。 新たな総合計画においては、上記の観点を踏まえ、記載を検討いたします。</p>

## 第4回総合計画・復興計画策定検討部会(1/20)における委員からの主な発言と応答

### <部会長あいさつ >

No.	氏名	発言内容
1	川崎部会長	<p>一昨年の12月以来、久しぶりの開催になります。</p> <p>本日の議事としては2つあります。総合計画の素案(総合計画の全体的な構成を示したもの)、それから復興計画の素案となります。</p> <p>総合計画については、前回、計画の柱、骨格等についてお話しいただいたところです。</p> <p>本日は、これまでワークショップや懇談会等、様々な県民の御意見、審議会の中での皆さんからの御意見を踏まえ、ある程度全貌が見える形の案を準備しており、特に、今後、福島県が具体的にどうするべきかというところについて議論していければと思っています。</p> <p>もう1つの復興計画は、素案となります。まさに最終段階に近づいています。本日の審議を踏まえ、今月下旬からパブリックコメントに入っていきたいと思います。画竜点睛を欠くといったことはあってはいけませんので、改めてしっかりと見ていただき、来たる第2期復興・創生期間を含めた10年間の福島の復興に資するような復興計画にできればと思っています。</p>

### <(1) 新たな福島県総合計画(将来の姿、県づくりの理念、地域別の主要施策等)について >

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
1	横田委員	<p>(ふくしまの将来の姿について)観光についていえば、現状コロナの中で維持することが大変。観光産業の振興といっても、地元企業の旅館やホテルもあれば外資もある。福島らしさを考えると、地元の歴代の方をいかにして残していくかが大事。地元雇用なども踏まえてどう維持していくか。そこに繋がられるような10年後が見える感じの内容にできないか。観光は幅が広い産業。観光で一括りにするのではなく、分野として分けてもいいのではと思っている。</p>	—	<p>人口減少が進む中で、福島に人を呼ぶという視点からも、「福島らしさ」を大切にすることは重要であると考えます。</p> <p>御意見を踏まえ、将来の姿については、県民に分かりやすく、希望が持てる記載となるよう検討いたします。</p>
2	今野委員	<p>本文記載の中に、「農林水産業において、就業者数の減少や就業者の平均年齢の上昇が顕著である」との記載がある。次期計画では、高齢化することを悪いこととするのか。高齢者であっても社会や仕事を通じて必要とされることを考えると、高齢化は悪いことではない。今後年齢が上がっていく現実をしっかりと正面から受け止め、高齢者であっても、社会や職場から必要とされる環境づくりの視点にたった計画づくりが必要。福島からすれば、高齢者が生きがいをもって働けるということを肯定的に、事業承継などの部門でそのような方たちを活用する、そのような表現、視点があっていい。</p>	<p>今野会長のご指摘は、ひと・暮らし・しごと・暮らしの分野全体を串刺しする意見と考える。県の人口ビジョンでは、180万人が40年後に100万人になるという予測。ドラッグな変化が起こり得る。2人に1人が高齢者になる。そのようなタイムスパンを見据えて、高齢者も含めた生きがいをつくるということの基本・ベースに据えるべきという意見だと思う。悪いかどうかということではなく、それを前提として施策を検討するというのが大事。(川崎部会長)</p>	<p>人口減少、高齢化が進み、企業等の人材不足等が懸念される中で、高齢者は、県内経済を支えるとともに、技術や伝統・文化の継承など若い人材の育成面でも重要です。</p> <p>また、高齢者の積極的な社会参画は、生きがいにも寄与するものと考えます。</p> <p>新たな総合計画においては、上記の視点を踏まえ、記載を検討いたします。</p>
3	松澤委員	<p>○ ひと・暮らし・しごと分野を串刺しにして考える視点が大切。例えば、農林水産業の今一番のテーマは、「もうかる農林水産業」。</p> <p>○ ひと・暮らし・しごとの政策を紐解くと、農林水産業が全てのベースになる。「もうかる農林水産業」の実現がないと、「災害に強く犯罪の起きにくい安全・安心な県づくり」や「過疎・中山間地域の持続的な発展」などの政策にも繋がらない。</p> <p>○ 福島の農林水産業の持続可能性の観点で人材不足も非常に課題であることも踏まえると、それぞれ独立した施策ではなく、すべてを繋げて施策を展開していく視点が必要ではないか。全てが繋がっていて、相互関係があるという前提で主要施策を考えるべきである。</p>	—	<p>個々の政策・施策の相互関係や横断的な視点は重要であると考えますので、このことを踏まえ、主要施策の構築を進めます。</p>
4	岩瀬委員	<p>新型感染症に関する記載について、新たな総合計画は9年スパンで考えるということであり、もっと汎用的に書くべき。例えば、資料2には「新型感染症や災害等の社会を揺るがす事象」と少し汎用化されて記載しているが、「新型コロナウイルス感染症への対策」という記述の箇所もある。今後ワクチン等によって数年でコロナが解決された場合も考えると、汎用性を持たせた計画の書きぶりにすべきと感じた。</p>	—	<p>御意見を踏まえ、汎用的な記載を検討いたします</p>

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
5	岩瀬委員	<p>(将来の姿の部分の)ひとの基本的な考え方の部分、「～自分らしく自信や誇りを持って自立的に自己実現ができるよう～」などの部分は、基本的にはそのとおりだと思う。ただ、これを見た時に、どうすればこうなるのか、どうすればいきいきと仕事が出来て自分のスキルを活かしていけるのか、精神論ではなく具体的にどうつながるのかがこのページでは見えないと感じる。</p> <p>自分らしく活躍できるというのは、独りよがりではなくて、産業などのニーズに沿った自分のスキルがあって雇用に繋がって自分が活躍できるということ。どうすれば実現可能なのかを考えた上での記載になるといいと思う。</p>	—	<p>将来の姿は、そのイメージを県民の皆さんと共有できるよう、その「状態」を示しております。</p> <p>将来の姿を実現するための方策については、第4章の政策や施策、取組により示すこととしております。</p> <p>記載の内容については、引き続き御意見を頂きながら検討いたします。</p>
6	岩瀬委員	<p>(将来の姿について)例えば、ひとに関して言えば、健康長寿や結婚・出産・子育てなど、どちらかというと受け身のものである。それには何の反論もないが、それでいいのかというのが率直な疑問。例えば、一人一人が自分らしく活躍できる社会の実現というのは、社会の求めるニーズに応えるために自分のスキルを高めていくという自分からの視点を書くべきではないか。</p>	—	
7	岩瀬委員	<p>政策を見ると、ひと政策4「ふくしまを支える人づくり」や政策6「ふくしまへの新しいひとの流れづくり」など重要なことであるが、中身を見ると、政策6は国際交流のことであったりする(中身が薄い)。本県が持っているイノベ構想や医療産業などの重要な産業インフラをハブとして人を巻き込むといった産業施策に繋げていく記載が足りないと思う。</p>	—	<p>イノベ構想などの人材育成については、「しごと分野」に記載しておりますが、政策については現在精査中であり、御意見を踏まえ、主要施策の構築を進めてまいります。</p>
8	岩崎委員	<p>コロナ感染症の位置付けについて、「乗り越えた」との表現があったが、計画完成時にどの段階になっているかが見通せない状況である中で、今回の感染症により改めて見えてきたことを今後10年間の県づくりに反映できないかと考えている。</p> <p>人が集中していないことや食糧が地域内で賄えること、狭域での観光など、福島のような地方だからこそ発揮できる強みがあり、オルタナティブな取組の可能性が今求められているのではないか。地方への目線、農山村の価値への目線は以前よりも強まっており、これまでの福島の経験を沢山活かせると思う。</p>	—	<p>「乗り越えた」との表現は、御意見を踏まえ修正いたします。</p> <p>新型コロナウイルス感染症により課題やこれを踏まえた県づくりについては、改めて整理の上お示しいたします。</p>
9	岩崎委員	<p>農林水産業について、中山間地域では農地の規模拡大もできない状況。しかし農業は続けることによって地域社会を維持できる役割を持っており、儲からなくても続ける必要がある。「もうかる農林水産業」を実現しつつ、農業の多面的機能のようにお金に繋がらない価値も大切に、調和のとれた計画になるとよいのではないか。</p>	—	<p>農業・農村の有する多面的機能の維持・発揮も重要な視点であると考えており、これを踏まえ、主要施策の構築など調和のとれた計画となるよう記載を検討いたします。</p>
10	前澤委員	<p>社会で活躍する人が高齢化している。活躍している人のノウハウを色々な人に繋げられる仕組みを作ってほしいと思う。若い人はどうしていいかわからないだけで、こうすればいいんだと導いてあげれば知恵や工夫が出てくる。若い人を育てて社会に適應できる力を身に付ける必要があると考える。</p>	—	<p>少子高齢化が進む中で、本県が持続可能な社会を進めていくためには、担い手の育成や技術の継承等、若者の育成は重要な要素であると考えます。</p> <p>それらの観点を踏まえ、主要施策において検討いたします。</p>

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
11	前澤委員	中高生は多感であり、原発問題や台風被害、そしてコロナで心を痛めていて、虐待やいじめや傷つけ合いが増えている。それを配慮した上で、みんなで社会を支えていこうという仕組みができればいいと思う。	—	新たな総合計画においては、誰もが安心していきいきと暮らせる県づくりを目指し、相談体制や各種支援体制の充実を図るとともに、学校や家庭、地域が連携した社会全体で支える視点を大切に、主要施策において検討いたします。

< (2) 次期福島県復興計画(素案)について >

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
1	岩瀬委員	心身の健康の「県民の健康の保持・増進」の成果として、県民健康調査を記載すべき。課題には県民健康調査の記載があるが成果に記載がないので、何もやっていないというように誤解されるおそれがある。	—	御意見を踏まえ、計画素案を修正しました。
2	横田委員	県が目指す目標(将来の姿)や数値など、指標とまではいかないうちでも目標とする数値等があるならば文章の中に入っていた方が分かりやすいのではないか。	—	御意見を踏まえ、目指す姿の書きぶりなど計画素案を修正しました。 なお、目標となる数値については、現在、次期総合計画において検討している段階であり、また、各部局の計画においてもそれぞれの指標の目標値の設定作業を進めている段階であることから、計画素案には記載ませんが、次期総合計画の策定に合わせて別途整理いたします。
3	今野委員	東日本大震災で何を学び、どういった課題が改善されたかを計画の中に盛りこめれば良い。	—	第1章の「主な復興の成果と課題」において、「復興まちづくり・交流ネットワーク基盤強化」の箇所の一つの例として記載しておりますが、事業構築に当たった参考として、担当部局に頂いた意見をつながせていただきます。
4	今野委員	ICTの環境整備によるデータベースを活用したメンタル支援といった対応も必要ではないか。	—	事業構築に当たった参考として、担当部局に頂いた御意見をつながせていただきますとともに、デジタル化に関する御指摘であるのとらえ、デジタル変革についての記載を充実しました。
5	今野委員	復興の過程の中で失われてしまった「福島県の良さ」にも目を向け、計画に反映する必要があるのではないか。	—	御意見の趣旨は、県づくりの理念に関係の深いものと考えます。復興計画は総合計画のアクションプランであることから、頂いた意見を次期総合計画の策定に生かしてまいります。
6	岩崎委員	SDGsに触れるのであれば、福島県の震災・原発事故からの復興に向けて、具体的にどのような形でSDGs理念を生かしていくのかを強調して記載すべき。	—	御意見を踏まえ、計画素案を修正しました。
7	岩崎委員	SDGsの「誰一人取り残さない」という理念は、様々な立場にある全ての被災者に対して、福島県からの大切なメッセージになり得る。	—	御意見を踏まえ、計画素案を修正しました。
8	松澤委員	SDGsについては、今後、全ての取組に関わる理念であるので、現在の復興計画の案分のように対応表のような形でとどめるのではなく、文章として表現した方がよいのではないか。	—	御意見を踏まえ、計画素案を修正しました。

No.	氏名	発言内容	応答内容等	事務局回答
9	松澤委員	今回の感染症を一つのきっかけとして、医療や福祉サービスの提供体制や子育て環境、新たな働き方などの見直しを行う機会になる。	—	感染症をきっかけとする1つの例として、デジタル変革についての記載を加筆し、主な取組も記載いたしました。また、事業構築に当たっての参考として、担当部局に頂いた御意見をつながせていただきます。